

## 令和7年度事業報告

(令和7年4月1日～令和8年3月31日)

令和7年度の函館観光は、一昨年アニメ映画公開に伴う爆発的な「聖地巡礼」需要の反動が懸念されましたが、結果として、上半期の延べ宿泊客数は280万6千人と過去最高を記録いたしました。下期においては、中国人観光客の動態変化を注視しつつも、過去最多のクルーズ船入港、韓国路線の復活、さらに羽田便の増便による念願のナイトステイの実現など、本市観光が極めて活況を呈した一年になりました。

当協会では、特別委員会による「今後の活動内容に関する提言書」を指針とし、市の観光基本計画と歩調を合わせながら、戦略的なプロモーションと受入体制の強化に邁進してまいりました。その中で重点目標として掲げた二つのKPIの実現に向け、第一の目標である「一人当たり平均宿泊数1.48泊」に関しては、温泉資源を活かした「ホッと函館！温泉チケット」が、航空会社のオプション商品に採用されるなど、滞在型コンテンツとして定着いたしました。また、青森県大間町との連携による「函館・大間まぐろきっぷ」は、海神参拝という新たな物語を提示し、国内外から予想を上回る反響をいただきました。

これら施策の効果もあり、平均宿泊数は令和6年度の1.29泊から、令和7年度上期には1.37泊へと確実に上昇し、目標達成への確かな足がかりを築くことができました。

第二の目標である「外国人宿泊者数年間100万人」については、上期実績が22万6千人と過去10年で最高となり、コロナ前の水準を上回りました。戦略面では、市場の多角化を見据え、東南アジアの新興市場であるインドネシア市場の開拓に具体的に着手しております。

また、本年4月からの「宿泊税」導入にあたりましては、その活用に向け、昨年度、会員の皆様からいただいたご意見を29項目の要望事項に取りまとめ、市へ提言し、その結果、要望の多くが本年度事業に採択されております。

一方、市観光部と当協会との組織改革につきましては、昨年度末に函館市長から協力要請を受け、現在、市との協議を進めているところです。

昨年度は当協会創立90周年という節目の年でもありました。村田茂樹観光庁長官をお迎えした記念式典を通じ、地域経済の牽引役として当協会が果たすべき責務の重さを改めて認識した次第です。

この活況を一過性のものに終わらせず、持続可能な観光都市・函館の確立に向け、令和8年度も会員の皆様とともに歩んでまいり所存です。